

<b>Title</b>	開会の言葉 グローバリゼーションとキリスト教的連帯：なぜいまや日韓関係の再構築が必要であるのか
<b>Author(s)</b>	大木, 英夫
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, 第 50 号別冊 日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号, 2011.3 : 22-24
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3180">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3180</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 開会の言葉

### グローバリゼーションと

#### キリスト教的連帯

——なぜいまや日韓関係の再構築が

必要であるのか——

大 木 英 夫

日本の敗戦がもたらした最大なことは、古い大日本帝国憲法の廃棄、そして新しい日本国憲法の制定ということでありました。この重大な事実が、これまで聖学院大学総合研究所の中心的研究課題となってきました。

明治以後敗戦に至るまでの近代日本七七年の問題は、その名称「大日本帝国」があらわに示す帝国主義です。その帝国主義は「天皇」への強烈な収斂を

持つ国外への拡張主義でありました。これを破壊するためには、二発の原爆による無辜の人民の惨憺たる悲惨を見なければなりませんでした。一八八九年の明治憲法の制定から一九四五年の廃止に至るまでわずか五六年、戦後、一九四六年の日本国憲法の制定から今年二〇一〇年までは六四年、すなわち五六年を既に八年過ぎて、その間、何の改定もなされていません。それが日本の戦後の国家の現実を示しています。

日本は、アメリカから受けたデモクラシーをこのように享受し、かつ堅持してきました。聖学院大学総合研究所はこの事実を見つめ、昨年から今年までの二年をかけて更（あらた）めて憲法研究を継続しました。明治憲法は、実はプロイセンの憲法をモデルとしたもので、そしてその軍国主義もプロイセンがモデルでした。日本国憲法に継承された人権理念は一八世紀のアメリカ革命から一七世紀のイギリス革命へと遡ります。それはフランス革命の系統ではありません。こうして新しい憲法は、世界平和を目

指す国家へと日本人を規定してきたのです。

そこで、わが研究所が日韓関係にこれまで関心を傾注してきた理由について述べたいと思います。それはまず、大日本帝国憲法的日本帝国主義の過ちを深く反省し、日本の新しい国策方向を最も近い隣国である韓国との間に確立することから出発するためでした。そこで、日韓関係の過去・現在・未来をキリスト教的信仰の視座から見直すために、韓国の教会人であり南北関係の専門家である康仁徳先生を客員教授として迎え、日本からも専門家を入れて日韓関係の研究を開始し、今日までかなりの成果を上げることができました。その成果は、特に康仁徳先生を通して永楽教会や長老会神学大学校との関係を深めることへと至りつつあることです。

それだけでなく、韓国憲法のデモクラシーと日本国憲法のデモクラシーは同根であるということを、われわれは憲法研究を通して知っているからです。地理的な隣国関係、また歴史的に深い文化交流というだけではない、日韓を結ぶ絆は、日韓両国の憲法

がどちらもデモクラシー憲法、同じ原理であるということが、極めて重要なことであります。

ところで、日韓関係にかかわるわれわれの願いは、大日本帝国憲法時代の日本の犯した罪を悔い改め、日本国憲法による新しい日本の形成のための外交的第一歩として日韓関係の新しい構築へと献身せねばならないということです。そのとき、われわれの模範として記憶されるのは、ヨーロッパにおいて長らく敵対関係にあったフランスとドイツが、あの長きにわたって両国の争いの地ザールとシュレージエンを、一転、今日のEUの起点へと大転換した歴史的事実です。敵対が裏返されて協働へ、すなわち力を合わせてともに事を成す、それが今日のEUとなつて大きく展開していきました。そのような転換が東洋においてあり得るとすれば、それは日本と韓国との間でありたい、そして新しい“AU”の形成、それが日韓両国の新しい共同作業となる、もしそれが実現すれば、それは東アジアの新しい時代を開くことになると考えたからでした。それは中国と

北朝鮮の「共産主義」的連帯のようなものとは異なります。そのようなものは、あのベルリンの壁の崩壊で既に終わっているではありませんか。東洋でなお企てられるとすれば、それは「過去」の残影でしかないでしょう。もし、日韓両国においてアジアに“AU”的な新しい国家連合ができれば、日韓の絆は新しいグローバリゼーションのアジアにおける共同作業を推進することになるでしょう。デモクラタイゼーション、それがグローバリゼーションの機軸とならなければなりません。

この世界的動向に日韓両国が東アジアで協働する、それをわれわれは夢見ています。近代デモクラシーがキリスト教的基礎を持つものであるゆえに、その協働、その推進は、キリスト教的連帯を必要とします。それゆえ、われわれは日韓のキリスト教的連帯を基礎とせねばならないと考えています。

以上です。ありがとうございました。（拍手）